

# 福岡県立図書館

## 平成 29 年度運営状況に関する評価結果

当館が策定している基本方針及び基本計画を踏まえ、平成 29 年度重点的に取り組んだ事項と関連する指標についての評価を実施し、その結果に基づき運営の改善を図っています。

### 基本方針

福岡県立図書館は、本・図書館員の専門性を活用し、福岡県の人・学び・文化の発展に貢献します。

目標 1：福岡県の文化の継承発展を図り、地域で活躍する人財を育てるお手伝いをします。

目標 2：日々の暮らしや仕事の中での、課題解決のお手伝いをします。

目標 3：読書の喜び、心の豊かさを育むお手伝いをします。

### 重点取組の評価基準

評価	内容
☆	計画どおりに実施でき、取組や活動に大きな成果がみられた
◎	計画どおりに実施でき、一定の成果があった
○	改善や課題はあるものの、おおむね計画どおり実施できた
△	取組や活動が不十分であり、計画どおり実施できなかった

### 指標の評価基準

評価	目標に対する達成率	内容
☆	110%以上	目標が十分に達成された
◎	100%以上 110%未満	目標が達成された
○	90%以上 100%未満	目標がある程度達成された
△	90%未満	目標の達成が十分ではない

**目標1：福岡県の文化の継承発展を図り、地域で活躍する人財を育てるお手伝いをします。**

**1 郷土資料センターとしての役割**

基本計画

- ① 福岡県に関する出版物及び県内出版物の収集・保存・提供により、福岡県の文化の継承・発展を目指します。
- ② 福岡県関係の資料・情報をデジタル化して公開し、県全体としてのデジタルアーカイブの構築を目指します。
- ③ 福岡県に関するレファレンス・ツールの作成と、レファレンス事例の蓄積・公開により、ビジネスや教育など、地域の課題解決に貢献します。

(1) 29年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
① 当館未収集資料の補充や複本化を図るため、入手可能な郷土図書を調査し、収集に努めます。また、当館が所蔵する黒田家文書の一部資料が、平成28年3月、朝鮮通信使関連資料としてユネスコ「世界の記憶」へ登録申請されたことを受けて、実物展示や情報の発信に取り組みます。	古書店から67冊の郷土図書を購入し、未収集資料の補充及び複本化を進めた。 「福岡藩朝鮮通信使記録(黒田家文書)」が、平成29年10月に「世界の記憶」に登録されたことに伴い、展示パネルを制作し、原資料・関連資料を展示するとともに、ホームページでの情報発信を行った。	◎
② 国立国会図書館など他機関が所蔵しない福岡県関連資料をデジタル化し、本館デジタルアーカイブ「福岡県立図書館デジタルライブラリ」の充実に努めます。	当館所蔵の絵図『筑前国十五郡三図』等をデジタル化し、デジタルライブラリで公開した。 デジタルでの新聞閲覧が進んでいることから、戦前に発行された地域紙のマイクロフィルムからのデジタル化を行った。	◎
③ 郷土資料に関するレファレンス事例を、当館ホームページ及び国立国会図書館運営のレファレンス協同データベースに、追加登録に努めます。	問合せの多いレファレンス事例を中心に、当館ホームページ及びレファレンス協同データベースに新たに30件を登録した。	◎

(2) 指標の達成状況について

指標項目	目標値	29年度実績	達成率	評価
資料特別利用の件数	120件	121件	101%	◎
郷土資料(福岡県)の質や量についての利用者満足度	94%	98%	104%	◎
デジタルアーカイブの特別利用件数	84件	74件	88%	△
郷土資料室レファレンス件数	5,100件	4,770件	94%	○
郷土資料に関するレファレンスデータベースの登録件数	30件	30件	100%	◎

(3) 評価及び今後の取組・改善点について

- ・郷土資料センターとしての重点取組については、概ね年度計画どおり実施できた。特に、古書の購入により、未収集資料の補充ができ、資料提供の機会が増加した。
- ・指標の達成状況については、資料特別利用件数及び利用者満足度は、目標値を上回ったが、レファレンス件数については、減少傾向にあり、目標値に到達できなかった。

- ・今後も計画的に郷土資料を収集するとともに、郷土資料のデジタル化も進め、デジタルアーカイブの充実をめぐる。また、ホームページで公開するレファレンス・ツールの充実を図り、利用者が必要とする資料の所在情報を提供していく。

## 2 県内図書館活動の推進拠点としての役割

<p>基本計画</p> <p>① 市町村立図書館等職員に対する研修等を行うとともに、「福岡県公共図書館等概況」の刊行など図書館運営等に関する情報提供や市町村立図書館等への巡回相談を実施するなど、市町村立図書館等の活動を支援します。</p> <p>② 「福岡県図書館情報ネットワーク」の運営により、市町村立図書館のほか、大学・学校・専門図書館を含む県内図書館間の相互貸借の充実に貢献します。</p> <p>③ 「福岡県公共図書館等協議会」、「福岡県図書館協会」、「福岡県点字および録音図書連絡協議会」などの活動を通じて、館種を超えた図書館間の相互協力を推進します。</p> <p>④ 図書館ボランティアとの連携及びボランティアの育成を図ります。</p>
---

### (1) 29年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
<p>① 市町村立図書館等の職員に対し、基本研修・専門研修を実施し、資質の向上に努めます。</p> <p>また、図書館未設置自治体との情報交換及び公民館図書室との連携を図るため巡回相談を行います。</p>	<p>基本研修として県内公共図書館等の初任者向け研修会を実施した。実技研修の「接遇」については参加者が増加したため、2回に分けて実施した。</p> <p>専門研修として県内公共図書館等向け中堅職員研修会を実施した。認知症を患う利用者への対応をテーマとした講演会と事例発表を行い、高評価を得た。</p> <p>また、製本・補修に関する研修を4回行ったほか、要請に応じて6回研修会への講師派遣を行い、市町村立図書館職員のスキルアップに努めた。</p> <p>さらに、郷土資料研修会及びレファレンス研修会(2回)を実施した。</p>	◎
<p>② 福岡県図書館情報ネットワークのシステム更新に向けて、市町村立図書館等から現行システムの改善要望等を聴取するとともに、資料の共同保存を行うための蔵書確認システム導入を検討します。</p>	<p>県内公共図書館等の相互貸借事務担当者から次期福岡県図書館情報ネットワークシステムへの要望を聴取した。</p> <p>資料を除籍する際の参考となる蔵書確認システムのプロトタイプを作成し、次期システムへの導入について、資料の共同保存の制度構築と並行して検討している。</p>	○
<p>③ 県立大学をはじめ、館種を超えた図書館間の相互協力を推進します。</p>	<p>九州歯科大学、西南学院大学、福岡大学の各大学図書館を訪問し、福岡県図書館情報ネットワークへの参加を促して相互貸借の活性化を図った。</p> <p>九州大学図書館とも別途協議してネットワークへの参加を促し、更なる相互協力の推進を図った。</p>	◎
<p>④ ボランティア養成講座を実施し、人材の育成を図ります。</p>	<p>録音図書制作(音訳等 校正)ボランティア養成講座(全8回)に参加者26名が参加した。</p> <p>映画資料整理ボランティア養成講座を実施し、ボランティアとの協働による、当館所蔵の映画資料の整理を開始した。</p> <p>電子図書DAISYの最新の製作・閲覧環境について研修を行い、72名が参加した。</p>	◎

### (2) 指標の達成状況について

指標項目	目標値	29年度実績	達成率	評価
図書館職員等対象研修参加者数	1,000人	611人	61%	△
県内公共図書館等への職員派遣回数	65回	74回	114%	☆

市町村支援満足度	99%	100%	101%	◎
市町村図書館等が利用した横断検索数	126,000 回	119,382 回	95%	○
相互貸借貸出依頼受付冊数	60,000 冊	59,610 冊	99%	○
ボランティア向け研修参加者数	600 人	529 人	88%	△

(3) 評価及び今後の取組・改善点について

- ・県内図書館活動の推進拠点としての重点取組については、概ね年度計画どおり実施できた。今後も、日常業務で多忙な市町村図書館等職員に対し、日程の設定等に配慮しながら、研修機会を設ける。
- ・指標の達成状況については、図書館職員等対象研修参加者数が、講義形式から実習やワークショップ重視の研修に移行し、募集定員を減じたことで目標値に到達できなかった。このため、研修回数の増加が課題である。また、ボランティア向け研修会を平日午後の日程を中心として実施したこともあり、当該研修会の参加者数が目標値には届かなかった。このため、開催日時や場所の検討が必要である。
- ・今後は、研修等の充実により、市町村図書館等職員のさらなる資質向上を図るとともに、各館等のボランティアの方々との連携・交流と新規ボランティアの育成に努める。

**目標 2 : 日々の暮らしや仕事の中での、課題解決のお手伝いをします。**

**1 資料収集保存センターとしての役割**

基本計画

- ① 日々高度化・多様化する県民の資料や情報の要求に応えるため、ビジネス、医療・福祉情報、法律、教育、子育て、地域活性化等の資料を、重点的に収集・提供に努めます。
- ② 青少年向け資料を含む子ども読書活動の推進につながる資料・情報の充実に努めます。
- ③ 福岡県内で利用の多い言語を中心に、外国語資料の収集・提供に努めます。
- ④ 読書に困難のある人へのサービスとして、大活字本やデジター図書・マルチメディアデジター図書等の収集・提供に努めます。

(1) 29年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
① 医療・福祉関係資料の重点的収集に努めるほか、「旅行ガイド」に関する資料の充実に努めます。	予定どおり医療・福祉関係資料を重点的に収集できた。 (受入冊数 1,260 冊) 旅行ガイドのうち、出版年が古い資料の更新を行った。(受入冊数 130 冊) 次年度は、法律関係資料を重点的に収集する予定である。	◎
② 市町村立図書館のモデルとなる子ども向けの資料整備を進めるため、歴史・社会科学に関する資料の重点的収集に努めます。	青少年向けを含む子どもの本は、市町村立図書館のモデルとなる資料整備を念頭に置き、歴史・社会科学に関する資料を重点的に収集した。(受入冊数:子ども 269 冊、青少年 132 冊) 次年度は、自然科学・技術に関する資料を重点的に収集する予定である。	◎
③ 英語版のビジネス関係資料の重点的収集に努めます。	福岡在住の外国人の利用を視野に入れ、外国の書評紙に掲載されたビジネス関係の資料を収集した。(受入冊数 111 冊) 次年度は中国語の日本紹介等の資料を中心に収集する予定である。	◎
④ マルチメディアデジター図書・LLブックの重点的収集に努めます。	読書に困難がある人へのサービス向上のため、大活字本及びマルチメディアデジター図書を受入した。大活字本は全点収集できたが、マルチメディアデジター図書は目標冊数に届かず、LLブックも購入できなかったため、次年度の課題としたい。(大活字本 60 冊、LLブック 1 冊、マルチメディアデジター図書 9 冊)	○

(2) 指標の達成状況について

指標項目	目標値	29年度実績	達成率	評価
受入資料数(録音図書を除く)	24,000 冊	23,459 冊	98%	○
新着資料回転数(注 1)	2.6 回	2.5 回	96%	○
新着資料貸出率(注 2)	70%	72%	103%	◎
一般書の質や量についての利用者満足度	86%	89%	103%	◎
読書に困難がある人向け資料収集タイトル数	240 タイトル	222 タイトル	93%	○

(注 1)新着資料回転数=新着資料貸出点数/新着資料貸出可能数

(注 2)新着資料貸出率=新着資料貸出タイトル数/新着資料貸出可能数

(3) 評価及び今後の取組・改善点について

- ・資料収集保存センターとしての重点取組については、概ね年度計画どおり実施できた。

- ・指標の達成状況については、読書に困難がある人向けの資料収集タイトル数は目標値に届かなかった。このため、マルチメディアデージー図書等の受入冊数の増加に努めていく。
- ・今後も、重点収集資料、青少年を含む子どもの読書に関する資料、外国語資料、読書に困難がある人のための資料を計画的に収集し、資料収集保存センターとしての機能の充実に努めていきたい。

## 2 資料情報センターとしての役割

### 基本計画

- ① 高度情報化社会に対応した図書館サービスとして、主要新聞や判例等のデータベースの充実と活用の推進を図ります。
- ② 国立国会図書館や国立情報学研究所、サピエ図書館等とも連携を図りながら、幅広い資料・情報の提供に努めます。
- ③ レファレンス事例を蓄積し、自館ホームページ及び国立国会図書館が運営するレファレンス協同データベースに登録・公開に努めます。
- ④ 「障害者差別解消法」に適切に対応した運営等により情報アクセスの改善に努めます。

### (1) 29年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
① 既存オンラインデータベースの更新や新規導入について検討します。	朝日新聞記事データベース聞蔵Ⅱの西部本社版を追加収録したことにより、情報提供の幅が広がった。次年度からは、同紙の「全国の地域面」を加え、地域版の利用環境を整備したい。	○
② 国立国会図書館へのデージー図書データの登録に向け、必要な準備や調査を進めます。	国立国会図書館へのデージー図書データの登録手法については、サピエ図書館への登録手法と比較検討しながら、実際の作業量の調査等の準備を進めている。	○
③ レファレンス協同データベースの事例の積極的登録に努めます。	歴史、技術、文学の他、各分野から30件の事例をレファレンス協同データベースに登録した。	◎
④ 職員が、障がいのある人へ適切な合理的配慮が行えるように資質の向上に努めます。	障害者差別解消法についての理解を深めるための職員研修を実施するとともに、県内公共図書館等の初任者向けに実施した研修会で、障がい者サービスに関する講義を設けて障がい者に対応する公共図書館等職員の資質の向上に努めた。 LLブックの収集はできなかったが、マルチメディアデージー図書の収集を行った。	○

### (2) 指標の達成状況について

指標項目	目標値	29年度実績	達成率	評価
データベース利用件数	1,700件	1,787件	105%	◎
有効登録者数(図書館を利用した登録者数)	14,000人	13,051人	93%	○
図書貸出冊数(録音図書を除く)	460,000冊	457,394冊	99%	○
図書貸出利用者数	171,000人	173,243人	101%	◎
レファレンスデータベースへの登録件数(郷土資料を除く)	30件	30件	100%	◎
レファレンス件数(子ども図書館、郷土資料室を除く)	55,000件	49,519件	90%	○

録音図書貸出点数(個人団体全件)	2,200 タイトル	2,567 タイトル	117%	☆
------------------	------------	------------	------	---

(3) 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 資料情報センターとしての重点取組については、概ね年度計画どおり実施できた。
- ・ 指標の達成状況については、入館者数の減少によりレファレンス件数は減少傾向にあるが、他の指標項目は概ね達成できた。利用者満足度調査等を分析、参考にしてニーズの把握に努めていきたい。  
 今後も、データベースの機能強化やレファレンス協同データベースの活用を図り、幅広い情報提供に努める。
- ・ 障がいのある人へ適切な合理的配慮が行えるよう、継続して研修を行うとともに、サピエ図書館を利用することにより、録音図書の充実を図る。

**目標3：読書の喜び、心の豊かさを育むお手伝いをします。**

**1 子どもの読書活動の推進拠点としての役割**

基本計画

- ① 子ども（18歳以下）が本に親しむための取組や技術の充実を図り、市町村の子どもの読書活動推進や読書ボランティア活動を支援します。
- ② 学校や学校図書館との連携を深め、学校での子どもの読書活動や課題解決のための調べ学習を支援します。
- ③ 近隣小・中学校と連携し、子どもの読書推進活動に関する調査研究を行い、読書を通じた学校教育に役立つ情報を提供します。

(1) 29年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
① 福岡「子どもの読書」関連団体等と連携し、ボランティアの集いなど、子ども読書推進事業を実施します。	子ども読書推進事業「ボランティアの集い」を関連団体と共催で実施し、66名が参加した。他館等から講座の講師紹介を依頼された際に、関連団体の運営委員を推薦するなど、年間を通じて連携を図っている。	◎
② 公共図書館の学校支援を推進するため、学校側の要望等を把握し、今後の支援策を検討します。	利用を希望する県立学校20校に対して、1校につき50冊以内で配送料を年3回までの利用に限り免除する特別貸出を試験的に実施した。	◎
③ 近隣小学校・幼稚園・保育園等へ来館おはなし会、招待おはなし会を実施します。	箱崎小学校全児童を対象とした「来館おはなし会」を学期ごとに全20クラスに実施した。また、近隣の保育園・幼稚園への「来館おはなし会」「出張おはなし会」を計10回実施した。	◎

(2) 指標の達成状況について

指標項目	目標値	29年度実績	達成率	評価
定例おはなし会参加者数	1,600人	1,492人	93%	○
子ども図書館の資料の質や量についての利用者満足度	97%	95%	98%	○
子ども図書館レファレンス件数	5,400件	10,127件	188%	☆
学校貸出図書セットの活用	210回	173回	82%	△
来館おはなし会、招待おはなし会の回数	56回	85回	152%	☆

(3) 評価及び今後の取組・改善点について

- ・子どもの読書活動の推進拠点としての重点取組については、年度計画どおりに実施できた。
- ・指標の達成状況については、概ね目標値を達成しており、大きく上回っている項目も。レファレンス件数については、学校において調べもの学習の機会が増加していることに加え、子ども図書館がそのお手伝いをしていることを館内掲示等で広報したことが要因と思われる。おはなし会の回数増加については、近隣に保育園・幼稚園が新設され、来館および招待おはなし会を希望する園数が増加したことが要因と思われる。
- ・今後は、学校貸出図書セットの内容充実、試行中の県立学校特別貸出のアピール、各市町村図書館等の「学校支援」の推進とその支援を積極的に行っていく。

## 2 大人の読書活動の推進拠点としての役割

### 基本計画

- ① テーマ別の図書展示や、新刊図書の効果的な展示等により、大人の読書活動推進に貢献します。
- ② 社会の変化や課題に対応したテーマに関する講演会や交流型イベントを企画し、読書への関心を呼び起こす取組に努め、大人の読書活動推進に貢献します。
- ③ 図書館を活用した学習活動が円滑に行われるよう、施設・設備の整備充実や資料の提供に努め、利用者の情報リテラシーの向上を支援します。

### (1) 29年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
① 県の事業のPR展示や、図書展示と連動した映画資料の展示など、企画展示、テーマ別展示の充実を図ります。	県政 PR については、申込総件数34件(資料とのコラボ展示4件、第一閲覧室での展示12件他)があり、県内市町村立図書館へのチラシ等の配布により、県民への事業広報に努めた。 企画展示では『本からのSOS』(入場者:3,508人)、『大政奉還150年』(入場者:5,004人)、当館で活動するボランティアについて紹介した『福岡県立図書館のボランティア』(入場者:1,695人)を実施した。 県内各地域及び読書への関心を高めるため、県内でロケが行われた映画や、原作のある映画の資料展示を2回行った。(入場者:第1回3,694人、第2回3,402人)	◎
② 福岡県読書推進大会など、県民の読書への関心を高めるよう、講演会やイベント等を実施します。	福岡県読書推進大会を中間市で開催し、優良読書グループの表彰を行ったほか、予備校講師の安河内哲也氏の講演会を行い福岡県の読書活動の推進に努めた。 第51回福岡県地方史研究協議大会では、当館初代館長の伊東尾四郎をテーマとし、その業績を広く知ってもらう機会とした。	◎
③ パスファインダーの改訂を行い、新しい情報を提供します。	一般向けパスファインダーを15件(データベース利用案内2件含む)、青少年向けパスファインダーを3件改訂し、合計18件について情報を更新した。	◎
④ 平成30年度、当館が開館100周年を迎えるに当たり、次代を担う読書推進拠点として記念となる取組について検討を行います。	県立図書館開館100年の歴史を県民に周知するため、記念誌及びPRのための動画を作成する準備を行った。 記念品(しおり、クリアファイル)の図案を決定した。	○

### (2) 指標の達成状況について

指標項目	目標値	29年度実績	達成率	評価
特集展示の回数(子ども図書館を除く)	43回	46回	107%	◎
県民向けイベント・セミナーの開催回数	19回	17回	89%	△
遠隔地サービス利用冊数	12,000冊	14,037冊	117%	☆
OPAC 利用回数	1,672,000回	1,968,643回	118%	☆
パスファインダーの更新数(子ども図書館を除く)	16件	18件	113%	☆

### (3) 評価及び今後の取組・改善点について

- ・大人の読書活動の推進拠点としての重点取組については、概ね年度計画どおり実施できた。

- ・各セミナーを外部機関と連携して開催し、併せて個別相談会を実施したことによって、個人の課題解決に有用なものとなった。
- ・出版関係者による講演会を実施したことによって、読書への関心を喚起する事業となった。
- ・県政PR展示では、県の各事業を当館及び県内市町村図書館をとおして広報することができた。
- ・指標の達成状況についても、概ね目標を達成している。
- ・今後も、県民向けセミナーや特集展示については、アンケート結果等を参考に、関心の高い分野でのテーマ設定や時宜を得た企画を行いたい。パスファインダーについては、情報が陳腐化することのないよう計画的な更新に努めていきたい。

## 用語の説明

### デジタルアーカイブ（1 頁）

有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し、劣化なく永久保存するとともに、ネットワークなどを用いて提供すること。

### レファレンス（サービス）（1 頁、2 頁、5 頁、6 頁、7 頁）

利用者が情報あるいは資料について図書館員に尋ねる質問。来館の利用者からの質問だけでなく、手紙、ファックスなどの文書による質問、電話、電子メールなどの通信手段を利用した質問もある。図書館員がこの種のレファレンス質問を受けて回答することは、レファレンスサービスの中心的な業務である。

### 福岡県図書館情報ネットワーク（2 頁）

県内の公共図書館及び図書室で「相互貸借」のネットワークを構築しており、自館に所蔵していない資料を他館から借りることが可能である。また、県内公共図書館の蔵書の横断検索システムと連動し、横断検索の結果、所蔵館に対してインターネットを介しての貸出申込みや回答が可能である。

### 福岡県公共図書館等協議会（2 頁）

県内図書館等の連携を密にして、図書館事業の発展を図ることにより、教育と文化の発展に寄与することを目的とし、1993 年（平成 5 年）4 月設立。県内市町村の公共図書館・公民館等図書室及び県立図書館、県の社会教育機関で構成。

### 福岡県図書館協会（2 頁）

県内の公共図書館、公民館図書室、学校図書館、大学図書館及び専門図書館が、館種を超えた幅広い連携と協力を推進し、県内図書館活動の振興を図ることにより、文化の発展に寄与することを目的とし、2005 年（平成 17 年）設立。

福岡県公共図書館等協議会、福岡県学校図書館協議会、福岡県・佐賀県大学図書館協議会（福岡県地区）及び専門図書館協議会（福岡県地区）の4つの協議会で構成。

### 福岡県点字および録音図書連絡協議会（2 頁）

視覚障害者に点字及び録音図書の貸出を行っている県内の施設等の連携を密にし、相互研修等を図り、視覚障害者の読書普及に資することを目的とし、1981 年（昭和 56 年）に設立された。県内で、視覚障害者に点字及び録音図書の貸出を行っている施設及び学校で構成し、現在 13 団体が加入。

### レファレンス協同データベース（1 頁、5 頁、6 頁）

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベースである。

### 資料特別利用（1 頁）

当館の資料を複製・翻刻しようとする者、又は資料の複写物を掲載・展示・放映しようとする者は、資料の特別利用申請書を提出し、承認を受ける必要がある。承認する際は、申請書に記入された目的以外に使用しない。資料が福岡県立図書館の所蔵であることを明示する等の条件を付している。

### 相互貸借（2 頁、3 頁）

利用者が見たい資料が図書館にないとき、ほかの図書館から借りて利用者に提供すること。

### 大活字本（4 頁）

弱視者用に大きな活字で印刷された図書。大型活字本ともいう。実際には、印刷方式にかかわらず、文字の大きな図書の総称としても用いられる。高齢者の利用もある。

#### デージー（4頁、5頁）

#### マルチメディアデージー（4頁、5頁）

デージー(DAISY)とは、Digital Accessible Information System の略称。

活字による読書が困難な人々のための国際的なデジタル録音資料制作システム。近年は音声だけでなく、画像やテキストデータとともにインターネットでも提供できるマルチメディア対応型記録媒体となっている。DAISY 資料は、カセットテープに比べて、検索機能や収録時間、音質などの点できわめて利便性に富む。再生には専用プレイヤーまたは編集用ソフトウェアが必要。2009(平成 21)年の「著作権法」改正により、公共図書館においても著作権者に無許諾で DAISY 資料を制作できるようになった。

#### サピエ図書館（5頁、6頁）

「サピエ」は、視覚に障がいのある方を始め、目で文字を読むことが困難な方々に対して、さまざまな情報を点字、音声データなどで提供する「視覚障害者情報総合ネットワーク」である。「サピエ」は日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会が「運営」を行っている。

サピエ図書館はサピエのメインサービスであり、全国のサピエ会員施設・団体が製作または所蔵する資料の目録並びに点字・音声図書出版目録からなる、点字図書や録音図書などの全国最大の書誌データベースである。資料によっては貸出依頼が可能、コンテンツをダウンロードすることもできる。

#### 障害者差別解消法（5頁）

《「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の通称》障害者基本法の基本理念に沿って、障害を理由とする差別を解消するための措置などについて定めた法律。障害のある人に対する不当な差別的取扱いを禁止し、行政機関や事業者に対して合理的配慮の提供を求めている。平成 28 年(2016年)4月施行。

#### LLブック（4頁、5頁）

LL はスウェーデン語で「やさしく読みやすい」を意味する言葉の略。知的障がいや学習障がいなどがある人々も楽しめるよう、内容を理解する助けとしてイラストや写真、記号を多く添えた本。「えるえるぶっく」という。

#### 合理的配慮（5頁）

障がいのある人が日常生活や社会生活を送る上で妨げとなる社会的障壁を取り除くために、状況に応じて行われる配慮。筆談や読み上げによる意志の疎通、車いすでの移動の手助け、学校・公共施設等のバリアフリー化など、過度の負担にならない範囲で提供されるべきものをいう。

#### 定例おはなし会（7頁）

当館が行っている「赤ちゃんのおはなし会」「小さな子のおはなし会」「小学生のおはなし会」の3つをいう。

##### 〔赤ちゃんのおはなし会〕

毎週 水曜日 午前11時から

奇数週(第1・3・5週)は0歳児向け、偶数週(第2・4週)は1・2歳児向けの内容。

わらべうた・手遊びなどを、赤ちゃんと一緒に楽しむプログラム。

##### 〔小さな子のおはなし会〕

毎週 水曜日 午後4時から

布の絵本、絵本、紙芝居、おはなしなど毎週違うプログラム。

##### 〔小学生のおはなし会〕

毎週 土曜日 午後2時から

ストーリーテリング、絵本、工作など毎週違うプログラム。

#### 学校貸出図書セット（7頁）

県内の小・中・高等学校への支援方策として、1セット40冊の本を一回につき3セットまで最長4カ月間貸し出す事業である。毎年セット内容を更新し貸し出している。

#### 特集展示（8 頁、9 頁）

その時々の社会問題や季節等に応じた特定のテーマを決定し、主題に沿った資料群による展示を行っているもの。テーマは約4週間ごとに設定し、図書を入れ替えている。

#### 遠隔地サービス（8 頁）

県民サービスの向上を図るため、県内のどの地域に住んでいても県立図書館に直接来館せずに県民の利用しやすい身近な図書館（室）で、県立図書館の所蔵資料を受け取り又は返却できるサービスである。（図書館間の相互貸借とは異なる。）

県立図書館は県下に1館しかなく、遠方に在住している方や来館が困難な障がい者、高齢者、子育て中の方など、県民へのサービス手段の一つとして遠隔地サービスは有効である。

#### OPAC（Online Public Access Catalog）（8 頁）

図書館において公共利用に供されるオンライン蔵書目録。オーパックと読む。

目録とは、受け入れた資料がどんな資料で、図書館のどこにあるかがわかるように、タイトル、著者名、出版者、分類記号などの情報を記録したものをいう。利用者が直接端末機を操作し、所蔵する資料を検索できる。

#### パスファインダー（8 頁、9 頁）

あるテーマについて調べるときに役立つ資料（図書・雑誌・データベース・ウェブサイト）や情報の探し方を簡単に紹介したもの。用紙での提供やホームページ上に公開している。

#### 【参考文献等】（順不同）

- ・ 図書館情報学用語辞典 第4版
- ・ 国際交流基金国際センター図書館のしごと
- ・ 国立国会図書館データベースホームページ
- ・ サピエホームページ
- ・ 小学館デジタル大辞泉